



2021年1月29日

各位

会社名 アズワン株式会社
 代表者名 代表取締役社長 井内 卓嗣
 (コード番号 7476 東証第1部)
 問合せ先 取締役コーポレート本部長 西川 圭介
 (TEL. 06 - 6447 - 1210)

業績予想、配当予想の上方修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2021年3月期の通期連結業績予想及び個別業績予想並びに配当予想を下記の通り修正しましたので、お知らせいたします。また、2021年3月期第3四半期決算において、下記の通り特別損失を計上いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

a. 業績予想の修正の理由

第3四半期連結累計期間までの経営成績が従来計画を大きく上回り、過日公表済みの業績予想を上回る見込みとなりました。

特に2020年10月から12月迄の3か月間における売上高は、構成比約8割を占めるラボ・インダストリー部門が復調し、同2割程度のメディカル部門では前年同期比1.8倍となりました。医療機関・介護施設における感染対策は常態化し、感染対策用品の需要はさらに増加しましたが、コロナ禍において代替品も含めた安定調達にいち早く対応してきたことや新物流拠点「Smart DC」の稼働等も奏功し、お客様の支持を得ながら拡大する需要にお応えすることができました。

なお、1月以降の予想につきましては、前年度においてコロナ禍における急速な需要の拡大が既に1月下旬から顕著に表れていたため、第3四半期にみられたような大幅な前年同期比増は見込めないものの、足元の収益環境に鑑み一定の加算を織り込みました。

また、販管費につきましては、売上高の増加に伴い運賃等の一部の変動費は増加するものの全般的に抑制ぎみに推移しております。

これらの結果から、営業利益及び経常利益は従前予想を大きく上回る見込みとなりました。一方で、第3四半期において子会社株式等に対する減損処理に伴う特別損失を計上したため、親会社株主に帰属する当期純利益は従前予想比1割程度の増加に留まる見通しとなりました。

b. 業績予想の修正の内容

[連結]2021年3月期通期連結業績予想数値の修正 (2020年4月1日～2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A) (2020年10月30日公表)	百万円 75,070	百万円 6,820	百万円 7,170	百万円 4,900	円 銭 262.29
今回修正予想 (B)	79,930	9,250	9,610	5,450	291.73
増減額 (B-A)	+4,860	+2,430	+2,440	+550	-
増減率 (%)	+6.5	+35.6	+34.0	+11.2	-
(ご参考) 前期実績 (2020年3月期)	70,389	8,550	8,822	5,966	319.60

[個別]2021年3月期通期個別業績予想数値の修正(2020年4月1日~2021年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (2020年5月12日公表)	百万円 69,840	百万円 6,820	百万円 4,670	円 銭 250.17
今回修正予想(B)	77,220	9,465	4,690	251.05
増減額(B-A)	+7,380	+2,645	+20	-
増減率(%)	+10.6	+38.8	+0.4	-
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	67,648	8,823	6,031	323.13

2. 特別損失の計上について

a. 損失の内容

当社は、2018年3月に当社グループの理化学機器卸としての専門性と株式会社トライアンフ・ニジュウイチが有するWEB購買業務代行サービスでの強みとを有機的に連携させ、両社のビジネス・ネットワークの融合を図ることで、eコマース分野での新たな付加価値を提供することを目的に同社を連結子会社化し、株式取得時に発生した「のれん」を計上いたしました。しかしながら、コロナ禍によるリモートワークやプロジェクトの遅延等により、これまでの業績が当初見込んでいた計画を下回って推移していることから、今後の事業計画を見直した結果超過収益力を見込むことができなくなったため、連結財務諸表で「のれん」の減損損失として826百万円、個別財務諸表で子会社株式評価損として2,246百万円を計上いたしました。

また、当社が保有する投資有価証券のうち実質価額が著しく低下したものについて投資有価証券評価損を428百万円計上いたしました。

これらにより、2021年3月期第3四半期決算において特別損失として、連結財務諸表で1,254百万円、個別財務諸表で2,675百万円を計上いたしました。

b. 今後の見通し

当該特別損失は、上記の「1. 業績予想の修正について」に反映しております。来期以降の業績や中期経営計画遂行における影響は軽微であります。

3. 配当予想の修正について

a. 配当予想の修正の理由

当社は、親会社株主に帰属する当期純利益を基準に配当性向50%を目標とする配当政策を利益配分の基本としております。この方針に従い、当期の期末配当金予想については上記業績予想の修正を踏まえ、1株につき86円(年間配当金は1株につき146円)に修正いたします。

b. 配当予想の修正の内容

	年間配当金(円)		
	第2四半期末	期末	合計
前回予想 (2020年10月30日公表)		71円00銭	131円00銭
今回修正予想		86円00銭	146円00銭
当期実績	60円00銭		
前期実績(2020年3月期)	83円00銭	77円00銭	160円00銭

以 上